

## 令和7年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時 令和7年7月8日（火） 9時22分～10時45分

2 会 場 秋田市役所 4階 会議兼応接室

3 出席者

### 【委員】

平野 浩之 委員長

河野 美香子 委員

根田 絵美子 委員

辻 良之 委員

※敬称は省略。委員長を除き、50音順

※欠席者なし

### 【公立大学法人秋田公立美術大学】

北郷理事長兼学長、石井副理事長、岩井理事兼研究科長、毛内理事兼副学長、柴田理事兼事務局長、加藤総務課長、大川学生課長、鎌田企画課長、佐々木総務課参事、金学生課長補佐、学生課森副参事、総務課加賀谷主席主査、総務課奥山主席主査、企画課小玉主席主査、企画課清水主査

### 【設立者・評価委員会事務局】

齋藤企画財政部長、小杉山企画財政部次長、成田企画調整課長、企画調整課鈴木参事  
企画調整課渡部主任

4 発言録

#### 次第1 開会

事務局

ただいまから令和7年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を開会する。

本日は、4名中4名の委員が出席しており、本委員会条例に規定されている定足数を満たしていることを報告する。

(齋藤企画財政部長あいさつ)

(北郷理事長兼学長あいさつ)

議事の進行については、規定により委員長にお願いする。

#### 次第2 議事

(1) 公立大学法人秋田公立美術大学第2期中期目標期間の業務実績について

委員長

次第に従い、議事を進行するが、秋田公立美術大学の第2期中期目標期間は、大学院の開設の年にスタートし、その後、コロナ禍も

あり、今まで経験したことがないようなことに対応してきたと思う。業務実績の自己評価の中にも見られるが、そういったことを含めて委員の皆さまから意見をいただければと思う。

それでは、大学の方から議事の(1)について説明をお願いします。

公立大学法人

(「資料1」について説明)

委員長

それでは、各委員からご意見や質問等があればお願いします。

委員

2点あり、まず、科研費については、色々な研究を試みることは非常に大事だと思う。その中で、秋田の大学なので、秋田の強みや特徴が何なのか、秋田に特化した研究をしていくのが秋田市民、秋田県民にとっても身近で親しみやすくなるのではないかと思う。もちろん既に研究されていると思うが、秋田の強み、魅力を追求するような研究を行ってもらえればよいと思う。

次に留学費の話だが、先日、国際教養大学の学生が自分たちが留学する費用を、民間の企業から募金を依頼していることを知り、私自身ぜひ協力しなければいけないと思ったところである。芸術分野に限らず、いかに民間からドネーションを引き出すか重要である。秋田市には、秋田大、県立大、教養大、美大と特徴がある国公立大学があり、税務問題も発生するので、4大学で民間からお金を集めるための受け皿となるような仕組みを作ってもらえれば、商工会議所、経済団体や企業を通じて、色々な会社や個人にも協力を広げられ、交流人口の拡大、流出人口の減少、将来的な経済効果にもつながると思う。本日は県立大学の平野副理事長もいらっしゃるので、ご協力いただきながら進めてみてはいかがかと思い、話をさせてもらった。

委員長

現在、秋田市の協力をいただきながら、ふるさと納税でこの4大学も参画し、寄附を受ける仕組み作りを進めているところである。

それ以外にも、美大は美大の基金があり、県立大も近々30周年を迎えるため、募金を集めないといけないと思っているところだが、寄附を集めるに当たっては、取り分の問題が出てくる。ステークホルダーの中で、地域の企業は共通していると思うが、卒業生から募ったり、各大学で色々考え、仕組みを作っていくことが必要と考える。

秋田の共通課題を解決するために、県立大、美大、国際教養大でCOI-NEXTが動いているが、そういうところから派生した秋田に特化したプロジェクトや事業を行うときは、クラウドファンディングでお金を集めるのも一つの手かと思う。国も県も市も財政状況は厳しい状況のため、大学自身が少しでも社会の理解を得ながらお金を集めていくことを考える必要がある。

公立大学法人

海外留学に伴う費用捻出についてだが、令和6年はイタリア、オーストラリア、韓国への留学助成として100万円、令和7年度、令

和 8 年度も同様に留学を助成することとしている。これには、10 周年という節目に合わせ、FA 基金を立ち上げ 10 周年までに 500 万円を集める目標に対し、4 千 800 万円ほどを集め、留学助成を始めとした事業で活用し、令和 8 年度までに全て使い切ることとしていた。ただ、令和 9 年度から何もやらなくなると、在校生の間でも去年はあって、今年はないというギャップが生まれるので、10 周年という切り口を外して、次の 20 周年までに FA 基金を存続させることを計画している。令和 9 年度は通常ベースで事業を存続させ、あきびネットにも寄附を依頼したいと考えている。今月中旬にキックオフし、個別に寄附を募っていききたい。美大でも個人、OB の寄附はあったが、OB は人数が少ないため、やはり企業には損益算入扱いにでき、個人は確定申告で寄附控除もできるのでその辺も伝えながら募っていききたい。県内の印刷会社や設計会社などに広く依頼し、次の第 3 期中期計画で 500 万円を目標として取り組んでいききたいと考えている。寄附のお願いの際には対面で、これまでの寄附金の活用や学生が喜んでしたことなど伝えていききたい。こういった活動により、学生が秋田で学ぶことを誇りに思い、一人でも多く秋田で活躍したいと思う学生がいれば本望である。

先ほど、秋田市が行っている寄附の話もあったが、どこまでメッセージが届くのかという課題もあり、クラウドファンディングも含めて、どうすれば外部資金を獲得できるか考えていかなければならない。

公立大学法人      そういったことを効果的に行っていくにはやはり広報である。改めて広報のやり方を検討していききたい。

委員                今、企業の方で、自動車、建設系のメカニックが人手不足で、県の技術養成学校でも若い高校生が減ってきている。そのため、企業が人を採用し、企業が学費を負担し、社員を大学に送り出すという方式を取りつつある。美大や県立大でも同様にできるような制度や仕組み作りができればと思う。これは企業側の手法かと思うが、これからはそうなってくると思う。

公立大学法人      科研費のことについてお答えします。

本学の弱みとして、他領域、他分野を巻き込んだ研究ができていない。逆に他分野を巻き込んだ研究は科研費がついている。秋田の課題は裏返せば秋田の強みになるのでそういったところに着目し、秋田の他大学、他分野とも連携し、科研費の研究計画書を作成したいと考えているが、どうしても研究計画書の作成を苦手とする者もあり、外部の方に添削の依頼や、来週には研究会で科研費を獲得した岩井先生の研究を参考に勉強していくこととしており、科研費の獲得に繋げていききたいと考えている。

また、科研費獲得が地域の発展にどう繋がっていくのか、科学の発展だけでなく、教育に影響していくのか、巡り巡っていけば大学がやっていることが市民の皆さまにも伝わり、こういうことをやっ

ているんだ、面白いなと思ってもらえれば循環していくと思う。  
あきびネットを通じて研究の効果を見える化させ、ご指摘のあった秋田の強みを大事にしながら、あえて課題として取り組んでいきたいと思う。

公立大学法人 違った視点から補足する。開学当初、ものづくりデザイン専攻で制作した作品をブランド化しようという考えがあった。それができれば、いい流れを作れたかもしれないが、ドネーション以前の問題として、学生が作り出す作品やデザインしたものに対し、対価を払うといった感覚が秋田では少ない。そういったことに対し、学生だから好きでやっているんでしょという考えが残っていて、我々がプロフェッショナルな指導をして作り上げた作品に正当な評価をいただいていると思っていない。それができるようになると、大学が作り出すものをブランド化し、ものづくりの対価として収入増も狙えると思う。今は受託事業で質の良いものが増えてきている。当初は大学の安い人材でデザインさせようという話もあったが、最近は減ってきている。ただ、まだまだ学生が作り出すものの価値が、もう少し市民の皆さまにも理解が高まってくるようなシステムを我々がつくらなければならないと感じ、ものづくりに対する姿勢も育てていく必要を感じている。

委員長 博士課程の修了者のうち、1名の進路が法曹関係ということだったが、弁護士資格を持っている方が入学したのか。

公立大学法人 その通りである。

委員長 その方は美大で何を学び、法曹の方で生かそうとしたのか。

公立大学法人 本人は、タイのバンコクで貿易関係の法律事務所をやっていたが、そこで文化の移動や経済価値が異なる人たちがアートを作り出し、どのようにして自分のコミュニティの人に届け、文化を拡散させるためにはどうしたらよいかということに興味を持ち、キュレーション、展覧会、ワークショップを組織し、それらを体系的に捉えたいということで本学に入学し、美術の流れの中で位置づける美術史のような研究に取り組んでいた。

委員長 令和6年度から入学した方の成績優秀者に奨学金を出しているとのことだが、必ずしも入学時優秀な人が卒業時にも優秀とは限らないと思うが、入学した段階で4年間奨学金を保証するのか、あるいは途中の段階で成績判定する形にしたのか。

公立大学法人 結論から言うと、これは一時金で新入生の一般選抜から1名、推薦選抜から1名の計2名に現金でそれぞれ50万円を支給している。4月に優秀者は判明しているが、支給後すぐに辞められても困るので、10月1日までに問題がなければ、その後支給することとしてい

る。令和8年度までは実施する予定だが、原資がないと継続は難しい。令和8年度入試に向けては奨学金の額を一部変更することも検討しているところである。

委員長 一般選抜だと試験の成績で判定しやすいと思うが、推薦選抜はどのように評価するのか。

公立大学法人 推薦選抜でも書類選考や面接に加え、美大にはポートフォリオというものがあり、作品や研究の内容が視覚化されている。それぞれのポートフォリオをプレゼンテーションしてもらえると、火を見るよりも明らかで、その人物の評価に直接繋がる。

委員長 志願する段階で、成績優秀者に奨学金があるというインセンティブとなっているのか。

公立大学法人 入試要項の段階で広報している。

公立大学法人 教育実習で本学の教員が高校を訪問した際、この奨学金の話をするとう美術系の高校では大変喜ばれる。また、本学に学生を毎年送り込んでくれ、奨学金の効果はあると思う。

委員長 県立大も令和9年度から指定校推薦制度を導入することとしている。県内の進学校を対象とし、入学金相当を奨学金とする考えである。

公立大学法人 学内で県外指定校推薦も検討している。過去3年間、本学に学生を送り込んでくれている県外高校を対象としたいと思っている。本学は美術系大学の中では思ったよりも知名度があり、かなりの学校から学生が集まってくれると思う。まだ、秋田市との話が済んでいないため、手順を追って進めていく必要があるので、そういった方向性であるということで話をさせてもらった。

委員 学生が作ったものが販売に繋がらないという話があったが、常設で学生の作品を販売しているところはあるのか。

公立大学法人 常設の販売はしていないが、アーツセンターあきたと連携して、文化創造館等で定期的に学生が作った作品の販売会は実施している。市民の方には割と好評だが、売り上げはいまいちである。

委員 秋田市民の認識度がまだまだ足りないような気がする。あそこにいけば美大生の作品が見られると認知させるような、お土産ではないが、県産品を販売する場所に常設するなど、そういった場があればいいと思う。今年度、秋田港に大型クルーズ船が35回就航するが、ほぼ外国人の方であり、秋田犬のぬいぐるみ以外では銀線細工などに興味を示す人が多い。そういう方たちに向けて学生の作品を展示

・販売することを考えていった方がいいのではと思う。県民に広く認知されるような常設の展示も増やしていかれた方がいいと思う。

公立大学法人 第3期中期計画の中でも大学のキャンパスランドデザインに取り組むこととしており、展示機能や収蔵機能も合わせて心して取り組んでいきたい。

(公立大学法人秋田公立美術大学は退席)

次第2 議事 (2) 評価委員会設定の方針等の改正について

委員長 それでは、評価委員会設定の方針等の改正について事務局から説明をお願いします。

事務局 (「資料5」～「資料9」について説明)

委員長 法令で、年度評価が廃止されても大学では毎年評価を行っており、年度評価はなくとも、議会に財務諸表等を示す必要があり、県立大でも、その中に数値目標を掲げたものについて、自己点検評価の結果を加える形になるものと思われる。

事務局 美大でも市民に対し、業務を説明しないといけないということで、議会に提出する書類に、例えば事業報告書の中で、業務実績をどの程度記載するかまでは決まっていないが、数値目標の進捗状況などを示す方向で検討していると伺っている。その辺も含め、第2回評価委員会で今後の評価委員会への報告方法などをお諮りしたいと考えているため、よろしくお願ひしたい。

委員長 議事(2)については、原案どおり改正することとしてよいか。

(異議無し)

委員長 議事(2)については、原案どおり可決することとする。

次第3 その他 今後の予定等について

事務局 (口頭で今後の予定を説明)

次第4 閉会

事務局 令和7年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を閉会する。